

2018(平成30)年度 学外講座目次

講座No.	講座テーマ	担当教員	ページ
【法学部教員 提供講座】			
No.1 (法No.1)	お金の借り手を守る法律の仕組み	田中 稔	P.4
No.2 (法No.2)	なぜ、国は犯罪被害者に代って刑罰を犯罪者に科すことが許されているのだろうか？	中野 正剛	P.4
No.3 (行No.1)	トランプ大統領のアメリカと世界	佐藤 学	P.4
No.4 (行No.2)	「官」主導による日本の政治・行政	照屋 寛之	P.4
No.5 (行No.3)	PFIによる社会資本の整備	照屋 寛之	P.5
No.6 (行No.4)	どの子も伸びる、育て方一つ	照屋 寛之	P.5
No.7 (行No.5)	個人情報保護制度の意義としくみ	前津 榮健	P.5
【経済学部教員 提供講座】			
No.8 (経No.1)	行動計画・評価手法	浦本 寛史	P.6
No.9 (経No.2)	「景観」から読み解く琉球列島の地理	崎浜 靖	P.6
No.10 (経No.3)	沖縄の振興開発と振興予算	比嘉 正茂	P.6
No.11 (経No.4)	地方自治体の政策評価	比嘉 正茂	P.6
No.12 (経No.5)	失敗から学ぶ経営	村上 了太	P.7
No.13 (経No.6)	ヨーロッパ公企業論	村上 了太	P.7
No.14 (経No.7)	沖縄国際大学キャリア教育科目群の役割	村上 了太	P.7
No.15 (環No.1)	持続可能な観光と宿泊施設の環境保全対策	上江洲 薫	P.7
No.16 (環No.2)	主食からみた世界の食文化	小川 護	P.8
No.17 (環No.3)	海はだれのものなのか	呉 錫畢	P.8
No.18 (環No.4)	韓国(済州島)から沖縄の未来を探る	呉 錫畢	P.8
No.19 (環No.5)	アイルランドの経済・文化より沖縄の夢を語る	呉 錫畢	P.8
No.20 (環No.6)	沖縄のサンゴ礁の価値から真の豊かさを探る	呉 錫畢	P.9
No.21 (環No.7)	万人(うまんちゅ)で考える「琉球・沖縄独立論」！～平和・自由・平等の視点から～	友知 政樹	P.9
No.22 (環No.8)	沖縄から全ての「基地」がなくなったら沖縄経済はどうなるか？	友知 政樹	P.9
No.23 (環No.9)	在沖米軍人等の施設・区域外居住に関する一考察 ～北谷町砂辺区における“基地外基地問題”の事例～	友知 政樹	P.9
No.24 (環No.10)	ゲームの理論で考える環境問題・エネルギー問題	友知 政樹	P.10
No.25 (環No.11)	楽しいサンゴ礁生物学入門	山川 彩子	P.10
【産業情報学部教員 提供講座】			
No.26 (企No.1)	「総合型地域スポーツクラブ」って何？	慶田花 英太	P.11
No.27 (産No.1)	AR(拡張現実)・モーションセンサによる新世代ユーザ・インターフェース～	小渡 悟	P.11
No.28 (産No.2)	バーチャルリアリティで観光体験 －観光産業でのVRを用いた事例紹介－	小渡 悟	P.11
No.29 (産No.3)	AR(拡張現実感)・MR(複合現実感)による観光サポート	小渡 悟	P.11
No.30 (産No.4)	最近の地方財政の動向	前村 昌健	P.12

2018(平成30)年度学外講座目次

講座No.	講座テーマ	担当教員	ページ
No.31 (産No.5)	南嶋民俗資料館と喜宝院蒐集館に保存されている古布裂	又吉 光邦	P.12
【総合文化学部教員 提供講座】			
No.32 (日No.1)	対照言語学の立場から見た「多文化交流における誤解」	兼本 敏	P.13
No.33 (日No.2)	沖縄の地域社会における芸能の力	狩俣 恵一	P.13
No.34 (日No.3)	組踊の魅力	狩俣 恵一	P.13
No.35 (日No.4)	琉球舞踊と八重山舞踊の相違について	狩俣 恵一	P.13
No.36 (日No.5)	琉球・沖縄の伝統文化の継承について	狩俣 恵一	P.14
No.37 (日No.6)	古典文学の楽しみ	葛綿 正一	P.14
No.38 (日No.7)	琉球芸能に学ぶ(実演・解説・体験)	田場 裕規	P.14
No.39 (日No.8)	万葉を心の糧に	田場 裕規	P.14
No.40 (社No.1)	文化人類学入門	石垣 直	P.15
No.41 (社No.2)	台湾の歴史と文化	石垣 直	P.15
No.42 (社No.3)	「先住民族運動」とは何か	石垣 直	P.15
No.43 (社No.4)	琉球王国の屋瓦とその歴史	上原 静	P.15
No.44 (社No.5)	ものが語る地域の歴史と文化	上原 静	P.16
No.45 (社No.6)	歴史の消滅	藤波 潔	P.16
No.46 (社No.7)	「歴史認識」再考	藤波 潔	P.16
No.47 (社No.8)	子どもの「学力」を考える	藤波 潔	P.16
No.48 (人No.1)	認知症高齢者を地域で支えるために	安次富 郁哉	P.17
No.49 (人No.2)	働くあなたの介護保険制度超入門講座	安次富 郁哉	P.17
No.50 (人No.3)	北欧の障害者福祉政策 ～個人の暮らしを支える仕組み～	岩田 直子	P.17
No.51 (人No.4)	協働によるまちづくり ～生活課題を多様なセクターで解決する～	岩田 直子	P.17
No.52 (人No.5)	障害学入門 (Disability Studies)	岩田 直子	P.18
No.53 (人No.6)	”この子、何考えてるのかしら?” ～今日の沖縄を生きる少女少女のころ～	片本 恵利	P.18
No.54 (人No.7)	恋愛と結婚の心理学	片本 恵利	P.18
No.55 (人No.8)	赤ちゃんの心理学 ～妊娠から離乳まで～	片本 恵利	P.18
No.56 (人No.9)	夫婦円満の心理学	片本 恵利	P.19
No.57 (人No.10)	こどものころが見えてくる講座	片本 恵利	P.19
No.58 (人No.11)	職場・学校のためのメンタルヘルス講座	知名 孝	P.19
No.59 (人No.12)	発達障害児者支援のこれまでとこれからを考える	知名 孝	P.19
No.60 (人No.13)	どうする、どう考える沖縄の学力	三村 和則	P.20

【法学部教員 提供講座】

No.1 (法N0.1)

お金の借り手を守る法律の仕組み

法学部 法律学科教授 田中 稔

高い利息を払う約束でお金を借りる人は一般に貸し手に比べて弱い立場にあります。法律は約束される利息に上限を設けて借り手の保護を図ってきましたが、その上限を超えてお金を借りる人は絶えません。そこで、数年前に抜本的な法改正が行われました。裁判所は借り手が払いすぎた利息の返還を貸し手に命じています。この講座では、借り手を保護する法制度がたどった歴史を振り返りながら、現在の課題を探ります。

No.2 (法N0.2)

なぜ、国は犯罪被害者に代って刑罰を犯罪者に科すことが許されているのだろうか？

法学部 法律学科教授 中野 正剛

江戸時代の日本では仇討ちが犯罪被害者に許される場合があり、それに基づき犯罪被害者が加害者を追い詰めて殺害することが犯罪でないとされていた。ところが、明治時代に入るとそうした営為が野蛮とされて、犯罪に対し科すべき刑罰は国が一切の執行権を掌握し、逆に被害者による仇討ちや自力救済が犯罪とされ、処罰の対象になっている。なぜ、国は犯罪被害者でもないのに犯罪者を処罰することが正しいとされるのか、皆さんと一緒に考えてみたい。

No.3 (行N0.1)

トランプ大統領のアメリカと世界

法学部 地域行政学科教授 佐藤 学

予想を覆して大統領選挙に「勝利」したトランプ米大統領は、就任後も常識外れの政治手法を採り、また、内政、外交両面で、戦後米国の規範となっていた政策からの離脱を志しています。この講座では、「予測困難」なトランプ政権の「いま」を、米国社会、米国政治史、米国世界戦略、米国経済等を踏まえた、総合的な見地から、考えたいと思います。その上で、世界は今どこに向かうのか、その中で日本、沖縄に、トランプ政権が何を意味するのかを検討します。

No.4 (行N0.2)

「官」主導による日本の政治・行政

法学部 地域行政学科教授 照屋 寛之

官僚は、本来、政策決定において、政権党と内閣の補助者であるが、現実には、その主人公になっているのではないか。そのことが日本の政治・行政にどのような影響を与えているかについて考える。

【法学部教員 提供講座】

No.5 (行N0.3)

PFIによる社会資本の整備

法学部 地域行政学科教授 照屋 寛之

PFIはイギリスでスタートした民間の資金や経営のノウハウを活用した事業、手法による社会資本の整備である。沖縄でもPFIによる事業で旭橋周辺開発を計画している。PFIの概要、メリット、デメリットについて考えてみたい。

No.6 (行N0.4)

どの子も伸びる、育て方一つ ～子供は磨かれるのを待っているダイヤモンド～

法学部 地域行政学科教授 照屋 寛之

「カエルの子はカエル」というように、世間一般では、子供の能力は生まれつきであり、遺伝であるかの如く言われることがある。果たしてそうであるか。これは迷信であり、単なる固定観念であり、何の学問的裏づけも全くありません。20年余にわたって教育に携わってきた者の経験からすれば、子供の能力を伸ばすのは、一つには親の子供への接し方であると確信している。生まれつき子供の能力に個人差があるわけがないことは、今や多くの研究者が指摘しているところである。能力の差はこれまで、親がどう接してきたかの差であって決して子供の能力の差ではない。教育に関して子供には選べないものが二つあります。一つは学校の先生、もう一つは親です。しかし、先生と親は子供の学力が伸びるかどうかを大きく左右します。本講座では、親の接し方で子供の能力がいかに伸びるかを考えてみたい。

No.7 (行N0.5)

個人情報保護制度の意義としくみ

法学部 地域行政学科教授 前津 榮健

情報化社会の進展により、生活に便利さと豊かさがもたらされた反面、個人データの不正な売買、個人情報の大量漏えい・悪用などといった事案が相次ぎ発生し、国民に強い不安をもたらしている。いったん個人情報が不適正に取り扱われると、人格的・財産的権利利益が侵害され、取り返しのつかない深刻な事態を生じるおそれもある。そのような状況の下、長年の懸案であった個人情報保護法が、2005年4月施行されるとともに、県内の自治体の個人情報保護条例もほぼ整備されている。

本講座では、個人情報の保護の必要性、個人情報保護法・保護条例制定の意義、基本的なしくみ、判例・実例を概観すると同時に、個人情報の取扱いや運用上の問題点について考えてみたい。

【経済学部教員 提供講座】

No.8 (経N0.1)	行動計画・評価手法	経済学部 経済学科教授 浦本 寛史
<p>問題解決のツールとして、PCMという手法を紹介し、問題分析から目標分析を行います。さらにこの手法をベースにロジカルフレームワークという行動概要表をワークショップ形式で作成し、行動計画・評価手法を学ぶことができます。</p>		
No.9 (経N0.2)	「景観」から読み解く琉球列島の地理	経済学部 経済学科教授 崎浜 靖
<p>琉球列島は、沖縄本島を中心に、北は奄美諸島、南は先島諸島（宮古・八重山）東には大東諸島が分布しています。これら島々では、地形・地質・水文環境など特徴ある自然環境を有し、さらに集落景観・祭祀空間などにみる歴史性の違いも興味深いものがあります。本講座では、スライド写真から、琉球列島の地理空間の特性を探ります。</p>		
No.10 (経N0.3)	沖縄の振興開発と振興予算－沖縄振興予算とは何か？－	経済学部 経済学科准教授 比嘉 正茂
<p>離島振興法や山村振興法等にみられるように、戦後わが国における地域政策の政策主体は国であり、政策を実施するための財源については「国庫支出金」が用いられてきた。現在、沖縄県では「沖縄振興特別措置法」に基づき振興策が実施されているが、その振興策を実施するための財源も「国（中央政府）から地方自治体（沖縄県）への補助金」である国庫支出金を中心である。こうしたことから、本講座では、はじめに国と地方の財政関係を概観し、その後沖縄振興予算の中心を成す「国庫支出金」に焦点をあてて、沖縄の振興開発と振興予算の関係を検討する。</p>		
No.11 (経N0.4)	地方自治体の政策評価－現状と課題－	経済学部 経済学科准教授 比嘉 正茂
<p>地方自治体における「行政評価」の導入や「事業仕分け」の実施にみられるように、近年は県や市町村が実施する事業について、その有効性を客観的に評価・検証しようという動きが活発化している。本講座では、県内外の地方自治体の事例研究を通じて「自治体の政策評価の現状と課題」を明らかにする。また、政策評価の手法として近年注目されている包絡分析法（DEA）を紹介するとともに、実際にDEAを使った分析結果を示しながら、政策評価の課題や今後の展望について検討する。</p>		

【経済学部教員 提供講座】

No.12 (経N0.5)

失敗から学ぶ経営

経済学部 経済学科教授 村上 了太

本講座では、「経営」という立場で「失敗」の意味を説明します。経営学は学問的な体系を学ぶものですが、今回はその「学」を外して「経営」という視点を取り入れます。筋立ては、(1)現実社会で起きたいくつかの企業関連の問題（「失敗」にまつわる話）を取り上げる、(2)発生した問題の原因や要因を絞り出す、(3)「経営とは何だろうか」ということを考える、(4)結果として「考える習慣を身につける」というものです。この紹介コーナーでは敢えて題材となる企業のことにはふれません。なぜなら、刻々と時代が変化していますので、講座開催時に提供できる話題に随時更新していきたいと思うからです。

No.13 (経N0.6)

ヨーロッパ公企業論 ～タバコ事業を中心に～

経済学部 経済学科教授 村上 了太

1985年4月に電電公社と専売公社が、それぞれNTTとJTに改組された。また87年には国鉄がJRに改組された。1980年代における一連の三公社民営化の今日的意義とはどこに求められるのだろうか。本講座は、専売公社民営化の事例とヨーロッパとの比較を試みるのが目的である。明治以降日本政府は、タバコ事業の模範をフランスやオーストラリア、第二次世界大戦後の公社化に際してはイギリスにそれぞれ求めてきた。ヨーロッパのタバコ専売の6つの事例を取り上げながら「民」と「官」の役割を考えてみたい。

No.14 (経N0.7)

沖縄国際大学キャリア教育科目群の役割

経済学部 経済学科教授 村上 了太

2014年度より沖縄国際大学の共通科目に「キャリア教育科目群」が新設されました。本科目群の設置目的は、本学には1年間に数百人の退学者・除籍者、さらには数百人の学生が無業者として毎年卒業しているという現実を少しでも改善することにあります。こうした現実の数字をまずは把握し、大学の正課の授業の段階から課題として取り上げ、解決の糸口を見つけ出していきます。本講座もエッセンスとして内容を凝縮しつつ、構成されている科目（キャリア入門、文章表現入門、ジョブインタビュー入門、キャリアデザインA・Bなど）の概要、受講生からのアンケート結果、さらには講義計画（シラバス）の改善状況、そして今後の展開策なども説明します。

No.15 (環N0.1)

持続可能な観光と宿泊施設的环境保全対策

経済学部 地域環境政策学科教授 上江洲 薫

本講座では、持続可能な観光の考え方について、オーストラリアのフレーザー島や沖縄県東村の取り組みから検討したり、ホテル・旅館の環境保全対策として、沖縄県内やオーストラリアの事例を解説します。具
体的な取り組みとして、生ごみ・紙類・廃油などの廃棄物を分別してリサイクルを推進している沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ、また、エネルギーの効率化や中水システムの導入、二酸化炭素排出量を取引する国内クレジット制度の排出削減事業に取り組んでいるホテル日航アリビラ、八重山地方の宿泊施設などを事例に、持続可能な観光を考えます。この他、環境保全型宿泊施設の認定機関なども紹介します。

【経済学部教員 提供講座】

No.16 (環N0.2)

主食からみた世界の食文化

経済学部 地域環境政策学科教授 小川 護

主食を中心とする食材について、作物の伝播と栽培方法、作物の保存と利用方法について、映像資料も使いながら、解りやすく解説する。

No.17 (環N0.3)

海はだれのものなのか

経済学部 地域環境政策学科教授 吳 錫畢

2009年度ノーベル経済学賞受賞者のオストロム教授は、共有資源の管理について、従来の「国家」か「市場」ではなく、当事者が自主的に保管理する第三の道（コモンズ）を導いています。沖縄のリゾートホテルは、サンゴ礁が豊富である地域に多く見られますが、その場所は海の幸をとり、生活してきたコモンズだったはず。しかし、いつの間にか開発が始まり埋め立てられ、入ることが禁じられたりされます。海はだれのものなのか。30年前に白保に新石垣空港建設でイノー（礁地）が奪われる直前にオバアの闘いで守った経験に基づいて、サンゴ礁破壊の本質的な問題、適正な資源管理をコモンズ白保イノーから考えます。

No.18 (環N0.4)

韓国(済州島)から沖縄の未来を探る ～沖縄経済の自立に向けて～

経済学部 地域環境政策学科教授 吳 錫畢

近年の韓流ブーム。このブームはいったいどこから来たのでしょうか。約20数年間、続いてきた軍事独裁政権からもたらした絶望から、いまは希望への兆しをみせている韓国。沖縄でよく発生する米兵による事故や事件は、韓国でも同じく引き起こされています。しかし、韓国は大きな変化が見え始めています。特に、IT（情報）革命は、韓国の経済、社会、政治を大きく激変させ、また一部の米軍基地返還へつながっています。何がそれを可能にしたのでしょうか。ところで、沖縄の経済状況を見ると、つねに基地への依存、財政への依存を余儀なくしました。このような状況のなかで、沖縄の経済自立は可能であるのでしょうか。韓国から、また同じ島としての済州島から沖縄の自立を探ってみます。

No.19 (環N0.5)

アイルランドの経済・文化より沖縄の夢を語る
～飢餓の絶望からケルト民族の復活へ～

経済学部 地域環境政策学科教授 吳 錫畢

アイルランドは1990年代に入って欧州のなかで最も経済的成長が目立った国でもあり、それで「ケルトの虎」と呼ばれるようになりました。しかし、アイルランドは150年前に発生した大飢饉より約150万人が餓死し、100万人がアメリカなどへの移民を余儀なくされた辛い歴史を持っている国であります。映画のタイタニック号の二等船室には、大飢饉により未来を奪われた貧しいアイルランドの移民らで溢れていたそうです。しかし、特有のアイデンティティーによる底力により、2004年度には世界で最も暮らしやすい国として選ばれるようになりました。なぜ、これが可能になったのか、本講座では、アイルランドの歴史・文化・経済・観光の面から探り、沖縄の可能性を、また沖縄の夢を語ります。

【経済学部教員 提供講座】

No.20 (環N0.6)

沖縄のサンゴ礁の価値から真の豊かさを探る

経済学部 地域環境政策学科教授 吳 錫畢

沖縄の観光客数は年々急増し続け、沖縄経済に大きな役割を担いつつあります。ところで、海と関連する観光が沖縄にとって益々重要であります。特にサンゴ礁は、日本のみならず世界的にも貴重な生物環境であります。ところが、日本の復帰後、大規模な各種の公共事業や赤土流出、オニヒトデ、また自然変化による白化現象によって、沖縄のサンゴ礁の破壊が急速に進んでいます。本講座では、環境はいくらかというテーマで、沖縄のサンゴ礁の価値を貨幣評価で表現すると共に、沖縄経済の発展と真の豊かさの問題を互いに考えてみます。

No.21 (環N0.7)

万人(うまんちゅ)で考える「琉球・沖縄独立論」! ~平和・自由・平等の視点から~

経済学部 地域環境政策学科教授 友知 政樹

昨今、注目度が上がる「琉球独立論」について、平和・自由・平等の視点から共に考えてみましょう。琉球・沖縄の過去と現在に目を向け、さらに未来について考えます。経済は大丈夫なのか?安心・安全は大丈夫なのか?その他、諸々大丈夫なのか?琉球・沖縄の世論の移り変わり、世界の様々な平和的独立運動の事例、そして、国連における様々な取り組みなども紹介しながら、楽しく、かつ、真剣に考えます!

No.22 (環N0.8)

沖縄から全ての「基地」がなくなったら沖縄経済はどうなるか?

経済学部 地域環境政策学科教授 友知 政樹

沖縄から全基地(全ての米軍基地及び自衛隊基地)を撤去した際の沖縄経済に関する推計を2012年のデータをもとに行いました。沖縄県により公表された検討調査(2015年)において使用された推計方法に準拠し計算したところ、全基地撤去後、3兆8426億円の直接経済効果がもたらされると推計されます。この額は沖縄に基地があるためにもたらされる金額2623億円(基地関連補助金等含む)に対し14.6倍となると言えます。詳細は実際の講座において!

No.23 (環N0.9)

在沖米軍人等の施設・区域外居住に関する一考察
~北谷町砂辺区における“基地外基地問題”の事例~

経済学部 地域環境政策学科教授 友知 政樹

本講座では、日本国防衛省により公表された「米軍人等の施設・区域内外居住者の人数について」および「在日米軍人等(軍人・軍属・家族別)の施設・区域内外の市町村別居住者数について」の整理に加え、沖縄県における在沖米軍関係者向け基地外住居に関するデータの整理、在日米軍関係者に対する住宅関連手当の概観、そして沖縄県中部地区に位置し基地外住居問題(基地外基地問題)に悩む北谷町砂辺区の事例に関する考察を行う。特に沖縄県本島中部地区では、米軍関係者の基地内居住者数が減少する一方で、基地外居住者数が増加するという顕著な状況(米軍関係居住者の基地外へのシフト)が明らかとなった。

【経済学部教員 提供講座】

No.24 (環N0.10)

ゲームの理論で考える環境問題・エネルギー問題

経済学部 地域環境政策学科教授 友知 政樹

「塵も積もれば山となる」という言葉がある。ひとりひとりの何気ない行動が大問題を引き起こしかねない状況を懸念して使われる言葉である。環境問題やエネルギー問題などもその例外ではない。例えば、身近な環境問題としての「ゴミのポイ捨て問題」を解決するのは非常に困難である。エネルギー問題に関して言えば、「省エネ運動」を徹底させるのは決して容易なことではない。では、これらの難しさの原因は何なのか？そこに解決策は存在するのか？これらについて、“ゲーム”の理論を使って考える。ゲームの理論を通して世の中を覗くと、様々な「なぜ」に答えが見えてくる。

No.25 (環N0.11)

楽しいサンゴ礁生物学入門

経済学部 地域環境政策学科准教授 山川 彩子

ここは沖縄、広がるのは熱帯の美しい海！みなさんは今年、海に行きましたか？人工ビーチで海水浴？水族館でサンゴや魚を見たから十分？いやいや、沖縄大から車で10分の場所で、色とりどりの魚やサンゴ、カニ、貝を見つけられます。今、沖縄の海の環境悪化が叫ばれています。赤土汚染、サンゴの白化、オニヒトデの大発生、海岸域の埋立……。知らんふりはもうやめて、私たちの足元に広がる沖縄の海を見直してみませんか？

【産業情報学部教員 提供講座】

No.26 (企N0.1)

「総合型地域スポーツクラブ」って何？

産業情報学部 企業システム学科講師 慶田花 英太

平成12年に策定されたスポーツ振興基本計画の中で生涯スポーツの柱として全国で育成された総合型地域スポーツクラブも3,500クラブを超えたが、いまだに多くの人がある存在を知らないのが現状である。

そこで、本講座では総合型地域スポーツクラブ構想の背景からその概要、さらにはその役割や意義について説明し、今後のクラブのあり方について検討したい。

No.27 (産N0.1)

AR(拡張現実)・モーションセンサによる新世代ユーザ・インターフェース～

産業情報学部 産業情報学科准教授 小渡 悟

携帯電話、スマートフォン、ノートパソコンなどの情報機器をインターネットに接続してサービスを利用するというのは、今や当たり前の世の中です。さらに、最近では家電や自動車もインターネット上のサービスを利用することで利用者に対する利便性を向上させる試みが広がっています。また、ゲーム機ではリモコンをいわずに利用者のジェスチャ（身振り・手振り）で操作することが可能な製品が発売されています。さらに、携帯ゲーム機においては、カメラからの映像の上にCGを重ね合わせて表示するAR（拡張現実感）を応用したゲームも発売されています。本講座では近い将来に現実になるであろうインターネット、AR、ジェスチャを利用した新しい入出力方法（インタフェース）について実例を交えて紹介していきます。

No.28 (産N0.2)

バーチャルリアリティで観光体験
ー観光産業でのVRを用いた事例紹介ー

産業情報学部 産業情報学科准教授 小渡 悟

2016年に家庭用ゲーム機のVR機器（Playstation VR）が発売になり、話題になりました。沖縄県内でもVR体験の行えるアミューズメント施設などが増えてきています。しかし、「VRとは？」と問われても正確に答えるのは難しいのではないのでしょうか。また、「VR=エンターテインメント（娯楽）」と思われている人もいるのではないのでしょうか。本講座ではVRの基礎技術、歴史などもふまえ分かりやすく解説します。さらに、観光産業でのVRの活用事例を紹介します。

No.29 (産N0.3)

AR(拡張現実感)・MR(複合現実感)による観光サポート

産業情報学部 産業情報学科准教授 小渡 悟

スマートフォンなどのカメラからの映像にコンピュータで作成した映像（CG）を重ね合わせて表示する技術としてAR（拡張現実感）・MR（複合現実感）があります。2016年に公開されたスマートフォンアプリ「Pokemon GO（ポケモンGO）」ではAR技術が用いられており、世界中で話題になりました。また、携帯ゲーム機にもAR技術を用いたソフトが多く発売されている。

本講座ではARの基礎技術を解説するとともに、エンターテインメント（娯楽）以外での活用事例を紹介する。特に観光産業での観光サポート、道案内、新しい体験の提供などでのARの活用事例を紹介する。

【産業情報学部教員 提供講座】

No.30 (産N0.4)

最近の地方財政の動向

産業情報学部 産業情報学科教授 前村 昌健

バブル経済崩壊以降、わが国経済の低迷が長引く中で、経済構造改革、あるいは国および地方財政の構造・しくみを再構築する時期にきており、さまざまな課題が噴出している。地方財政に目を向けると、最も大きな課題は地方への権限および財源の委譲といった地方分権の推進であり、次に、地方財政全体としての赤字の増大、大都市を中心とした自治体財政悪化への対応である。

この講座では、最近の地方財政の動向というテーマで、地方財政の最近の状況をマクロ的にみた後で、地方財政および自治体財政の課題についてふれる予定である。

No.31 (産N0.5)

南嶋民俗資料館と喜宝院蒐集館に保存されている古布裂

産業情報学部 産業情報学科教授 又吉 光邦

八重山地方は、太平洋戦争による大きな戦禍が比較的少なく、かつ本地域において熱心に伝統文化等を後世に引き継ぐ為の努力がなされている。石垣島の南嶋民俗資料館と竹富島の喜宝院蒐集館は、私設でありながら非常に多くの文物を古くから蒐集し、保存に努めてきた。

本学外講座では、現在まで続く長年の調査研究によって明らかとなった南嶋民俗資料館と喜宝院蒐集館に保管されている古布裂について説明する。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.32 (日N0.1)

対照言語学の立場から見た「多文化交流における誤解」

総合文化学部 日本文化学科教授 兼本 敏

「言語は文化を規定する」と述べた学者がいます。「言語が先か、文化が先か」の話になってしまいそうですが、頻繁化している外国人との交流には意思の疎通、相手文化への理解が大切である、と言われていています。コミュニケーションの重要性が叫ばれています。「歓迎する気持があれば・・・、言葉（外国語）が話せれば・・・」本当にそうでしょうか？ 異文化との交流で生じる摩擦は多種多様な原因があります。この講座では日本語と他の言語（英語・中国語）を事例に摩擦（理解不足＝誤解）の原因について考察していきます。また、その対処方法を一緒に考えたいと思います。

No.33 (日N0.2)

沖縄の地域社会における芸能の力

総合文化学部 日本文化学科教授 狩俣 恵一

沖縄の各地では、村踊りやエイサーなどの芸能がさかんに行われ、途絶えた伝統芸能の復活などもさかんです。また、沖縄の結婚披露宴では、若者たちによる新しい芸能や余興が披露されていますが、これらは我が沖縄の社会が芸能の力を最大限に活用しているからです。これらを踏まえて、本講座では「沖縄社会における芸能が果たしている役割」について考えたいと思います。

No.34 (日N0.3)

組踊の魅力

総合文化学部 日本文化学科教授 狩俣 恵一

村踊りの組踊と伝統組踊保存会の組踊は、同じ組踊でありながらなぜこんなにも違うのでしょうか。演技者の上手・下手を超えたところに両者の違いがあることを考えてみたいと思います。また、新作組踊と古典組踊は、新しいか、古いかの違いだけでなく、さまざまな違いがあります。本講座では、これらの問題について考えてみたいと思います。

No.35 (日N0.4)

琉球舞踊と八重山舞踊の相違について

総合文化学部 日本文化学科教授 狩俣 恵一

琉球舞踊と八重山舞踊の相違点を考察することで、琉球舞踊と八重山舞踊の成立の問題について考えますが、その前提として琉球舞踊の系譜の中で、宮古舞踊や奄美舞踊が誕生しなかったのはなぜかという問題から考えてみたいと思います。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.36 (日N0.5)

琉球・沖縄の伝統文化の継承について

総合文化学部 日本文化学科教授 狩俣 恵一

琉球語圏の伝統文化は、奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島に分けて考えられてきた。しかし、伝統文化の継承については、それら諸地域の民俗文化に加えて尚王家とゆかりの深い首里の上層士族を中心にした洗練された伝統工芸・美術・芸能等をも視野に入れて考える必要がある。本講座では、土族文化と地域の庶民文化の継承についてお話しする。

No.37 (日N0.6)

古典文学の楽しみ

総合文化学部 日本文化学科教授 葛綿 正一

学生時代に「古典」を勉強して、嫌いになったという人がいるかもしれません。しかし、学生時代に勉強した「古典」など古典文学のごく一部にすぎません。人生の経験とともに味わいを増し、生き方の知恵を与えてくれるのが古典文学なのです。古典文学に触れる機会がないということは実に残念なことです。この講座では近松門左衛門の作品を読み進めながら、人生のドラマを味わってみたいと思います。なおビデオ鑑賞もありますので、ビデオ装置をご用意ください。

No.38 (日N0.7)

琉球芸能に学ぶ(実演・解説・体験)

総合文化学部 日本文化学科准教授 田場 裕規

琉球芸能文学研究会は、各人がそれぞれの流派・会派で学ぶ琉球芸能(舞踊・歌三線・箏曲・笛・太鼓・胡弓)や沖縄各地に伝わる民俗芸能(八重山舞踊・竹富島の芸能)を習得し、芸能に内在する文化的な価値を見いだす研究を行っています。顧問田場裕規・副顧問宮城茂雄(伝統組踊伝承者、琉球舞踊宮城流教師)の指導のもと、実践的に芸能を学ぶとともに、明朗活発な文化の発信を目指しております。本講座は、琉球芸能文学研究会の学生が日々稽古を重ねて習得した芸能を実演し、それに解説を加え、受講者と芸能を体験する講座になっております。修学旅行の沖縄体験学習や、地域の文化講座等で活用していただけるものと思います。

※活動実績「双葉踊り」(宮城県・東京都・愛媛県・北海道・兵庫県・和歌山県・宮古島市)

No.39 (日N0.8)

万葉を心の糧に ～歌に親しむ・古典に学ぶ～

総合文化学部 日本文化学科准教授 田場 裕規

約1300年の時を経て、現代に伝わる万葉集には、さまざまな人の歌が収められています。歌を書記することが、いかに画期的なことであったかを実感したとき、万葉集のもつ魅力に気づかれます。例えば、現代人の多くが恋に悩み、苦しみ、切ない思いをかかえて暮らすことがあると思いますが、万葉において「恋」は「孤悲」と表記されることがあります。現代にも通じる心が漢字表記の面からうかがい知ることができるのです。そこには五七五七七の律動だけではなくさまざまな工夫があり、その一つ一つをつむぐことによって、1300年前の人々の息づかいがよみがえります。歌に親しみ・古典に学び、万葉の人びとの心にふれることによって、現代を生きる我々の心の糧としたいと思います。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.40 (社N0.1)

文化人類学入門

総合文化学部 社会文化学科教授 石垣 直

「文化人類学」は、「文化」をキーワードに人類の多様性と普遍性を議論する学問です。私たち人類はいつ誕生した？ 「人種」が違えば「文化」も違う？ ヨーロッパ文明こそが世界史をリードしてきた？ 「夫婦別姓」はけしからん？ 日本人と中国人は「同種同文」？ 諸文化で「右」(東)が優越するのはなぜ？ キリスト教とイスラム教の対立は別個の神の間の戦い？ こうした問いに私たちはどれだけ答えられるのでしょうか？ グローバル化が進む21世紀に求められるのは、自文化の特徴を歴史的に理解し、敬意をもって異文化・他者と接する視点・態度です。文化人類学の初歩を学ぶことで、人類の歴史と現在について一緒に考えてみませんか。

No.41 (社N0.2)

台湾の歴史と文化

総合文化学部 社会文化学科教授 石垣 直

台湾は、私たちが住む沖縄に最も近い外国です。また、毎年沖縄を訪れる外国人観光客の中でもっとも多いのが台湾からやってくる人々です。しかし、現代の沖縄に住む私たちは、どれだけ台湾のことを知っているのでしょうか？ 台湾はかつて「琉球」と呼ばれていた？ 台湾はもともと「漢族」の島・土地ではなかった？ 「台湾人」＝「中国人」？ 「台湾人」はみんな同じ言葉をしゃべっている？ 台湾の人々の宗教は「仏教」それとも「道教」？「儒教」？ 水牛もパイナップルも台湾から沖縄にもたらされた？ 台湾の人々はみんな「親日」？ 隣人・台湾を知ることは、きっと沖縄の歴史と現在を再考する上でとても重要な刺激になるはずです。

No.42 (社N0.3)

「先住民族運動」とは何か

総合文化学部 社会文化学科教授 石垣 直

「先住民(族)」(native, indigenous peoples等)という言葉を目にする時、我々がイメージするのは、サバンナや熱帯雨林の狩猟採集民、自然と調和する「未開」の人々かもしれない。しかし、実は沖縄を含め、日本にも「先住民族」を自称し、「民族」としての諸権利を要求する人々がいます。そしてかれらの権利主張に耳を傾けていくと、「民族」の「伝統文化」・「言語」・「土地」を守ろうとするかれらの要求が、必ずしも復古的なものではないことに気付かされます。本講座では、その歴史とナショナル／グローバルな展開に注目しながら、「先住民族」概念が炙り出す現代社会の諸問題に接近することを目指します。

No.43 (社N0.4)

琉球王国の屋瓦とその歴史

総合文化学部 社会文化学科教授 上原 静

赤瓦のルーツは中国である。16世紀後半、沖縄に導入された製作技術は、いかに琉球王国に受け入れられ、普及していったのであろうか。瓦は当初限られた地域と建物に使用され、権力を象徴する役割を果たしていた。その後、王府は技術改革を行い、その象徴を沖縄本島内、八重山、宮古、久米島などの周辺離島にも広くおよぼしていく。その普及の実態を具体的に解きあかす。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.44 (社N0.5)

ものが語る地域の歴史と文化

総合文化学部 社会文化学科教授 上原 静

沖縄諸島の各地域に残された、史跡や貝塚、名勝などの文化財を通して、その地域の歴史、文化を紹介する。また、その保存、保護について考える。

No.45 (社N0.6)

歴史の消滅 ～50年後、現在は「歴史」になるか？～

総合文化学部 社会文化学科准教授 藤波 潔

私たちが過去の出来事を知ることができるのは、過去の人たちが記録（史料）を残してくれたからです。
しかし、記録は自然と残るものではなく、人間が意図的に働きかけなければ、消滅してしまうものです。実際、現代社会では、行政・企業・家庭を問わず、さまざまな場面で将来の史料となる記録が消滅しています。このままでは、50年後に今の時代は「歴史」として残りません。
記録とはどんなものなのか、記録を残すとはどんな意味があるのか、記録の重要性についてじっくりと考えてみましょう。

No.46 (社N0.7)

「歴史認識」再考

総合文化学部 社会文化学科准教授 藤波 潔

現在ほど、「歴史認識」が広く社会問題になっている時代はありません。歴史教科書の問題、日本と韓国・中国の間の「歴史問題」、靖国問題に象徴されるアジア・太平洋戦争認識の問題、アメリカ・EU等の議会で採択された「従軍慰安婦」問題等々、枚挙にいとまがありません。
しかし、そもそも「歴史」を「認識」するとは、どんな営みなのでしょう？「歴史認識」が「正し」ければ、すべての問題は解決するのでしょうか？この講座で、皆さんと考えてみたいと思います。

No.47 (社N0.8)

子どもの「学力」を考える

総合文化学部 社会文化学科准教授 藤波 潔

いわゆる「新テスト」の導入や大学ごとの個別入試の評価方法の変更など、日本の大学入試は、平成32年度に実施されるものから大きく変更することが予定されている。この変更の背景にあるものは、子どもたち身につけさせるべき「学力」に対する考え方の転換である。急速に変化するこれからの社会を前提としたとき、子どもたちに身につけさせるべき「学力」をどのように捉え、学校、家庭、地域でどのように育めばよいのか、皆さんとともに考えたい。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.48 (人N0.1)

認知症高齢者を地域で支えるために ～地域ケアを目指して～

総合文化学部 人間福祉学科教授 安次富 郁哉

誰しも歳をとっても自分の住み慣れた家、地域、そして家族や隣近所の友人と共に生活したいと思うものです。認知症(痴呆)の高齢者の方々も例外ではありません。呆けたから施設というのではなく、できる限りその人がその人らしく生活できるように家族だけでなく、地域全体で支えることが大切です。
本講座では、そのためには何が必要なのか、認知症という病を理解し、そして、認知症高齢者を理解してもらいます。
「とうとういねーたーやていん」(歳をとれば誰でも・・・)という考えを改めてもらい、そして、地域の中で支え合う地域ケアとは何かを一緒に考えていきたいと思ひます。

No.49 (人N0.2)

働くあなたの介護保険制度超入門講座

総合文化学部 人間福祉学科教授 安次富 郁哉

要介護高齢者数が増え続ける中で、働きながら介護をしなければならない労働者も増えてきています。そのような事態に備えて、知っているようで知らない「介護保険制度」について学んでみませんか。本講座では、介護保険制度の概要、介護保険サービスの内容などについて具体的に学べる講座です。介護と仕事の両立のためには、仕事に介護を合わせるのではなく、「介護に仕事を合わせる」ことが必要です。

No.50 (人N0.3)

北欧の障害者福祉政策 ～個人の暮らしを支える仕組み～

総合文化学部 人間福祉学科教授 岩田 直子

北欧諸国(主にスウェーデンとデンマーク)の障害者福祉について、楽しくお話しします。具体的には、障害者福祉の歴史、政策の動向、権利擁護、パーソナルシスタントやコンタクトパーソンの役割と効果などについてお伝えします。
他にも緑の成長モデルによる福祉国家についても触れたいと思ひます。

No.51 (人N0.4)

協働によるまちづくり ～生活課題を多様なセクターで解決する～

総合文化学部 人間福祉学科教授 岩田 直子

少子高齢社会、人口減少社会、巨大格差社会、分断社会……。今日の社会の特徴を紹介した上で、複雑なニーズを解決する方法のひとつとしての協働によるまちづくりについてお話しします。主に、政策の動向および県内外の事例を紹介をしたいと思います。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.52 (人N0.5)

障害学入門(Disability Studies)

総合文化学部 人間福祉学科教授 岩田 直子

障害学とは、障害を切り口として社会のことや文化を研究していく学問、思想、知の運動と言えます。「障害」そのものや「障害者の経験」を、医療やリハビリテーション、特別支援教育などのような専門分化された枠組みからいったん解放し、社会や文化の視点からとらえ直しています。この障害学の研究について楽しくお伝えします。

No.53 (人N0.6)

”この子、何考えてるのかしら？”
～今日の沖縄を生きる少年少女のこころ～

総合文化学部 人間福祉学科教授 片本 恵利

「一生懸命接しているのにうまくいかない」「何を聞いても”別に””フツー””ビミョー”しか返ってこない」「この子、大丈夫だろうか？」ふと、こんな思いにとらわれることはありませんか？この講座では、臨床心理学の理論およびスクールカウンセラーの実践に基づき今日の沖縄の少年少女たちから大人たちへのメッセージを”通訳”してお伝えします。

No.54 (人N0.7)

恋愛と結婚の心理学

総合文化学部 人間福祉学科教授 片本 恵利

「男性のここがナゾ」「女性のここが分からない」「結婚生活をうまく続けるコツは？」など、恋愛や結婚に関する身近なQ&Aを通して、同性と異性（性的マイノリティを含む）の理解、トラブル解決のヒント、自分も相手も大切に生き方について具体的にお伝えします。学内でも好評で、小学生から成人まで、幅広い年代の方に対応可能です。

No.55 (人N0.8)

赤ちゃんの心理学 ～妊娠から離乳まで～

総合文化学部 人間福祉学科教授 片本 恵利

「子どもはたくさん抱っこした方がいいの？」「言っても通じないときどうしたらいいの？」「何でも口に入れたり、何でも引き出しから取り出したりするのはなぜ？」「胎教って？」「どんな遊びをしたらいいの？」「おっぱいやミルクをどうやってやめたらいいの？」…子育てやしつけのコツに関する育児書やネットの情報はあふれていますが、案外、自分の思うような情報に巡り会えないことも多いもの。この講座では、身近なQ&Aを通じて、大人とは全く違う赤ちゃんの行動や考え方の特徴を心理学の立場から解説しながら、安心して赤ちゃんに関わるヒントをシンプルにお伝えします。反抗期対策にもお勧めです。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.56 (人N0.9)

夫婦円満の心理学

総合文化学部 人間福祉学科教授 片本 恵利

「二人で一緒に人生を歩んでいこう」と約束したはずなのに…どんなに愛し合って結婚しても、夫婦にはちょっとした不満やすれ違いはつきもの。この講座では、心理学の理論や様々な研究データを交えながら、夫に家事を分担してもらう作戦や妻の愚痴への対処法といった身近なことから、夫婦の危機の回避のポイントまで、問題解決のヒントを見つけてみませんか？

No.57 (人N0.10)

こどものこころが見えてくる講座

総合文化学部 人間福祉学科教授 片本 恵利

こどもと楽しく過ごしたい、能力を伸ばしたい、将来困らないようにできることをしてやりたい…誰もが願うことですよね。でも、分かっているもつい怒ってしまったり、ネットや書籍の情報を見てもかえって混乱してしまったり…この講座では、身近なQ&Aを通して幼児～児童期のこどもの特徴をおさえつつ、こどもが大人に望むこと、こどもの発達段階に応じたコミュニケーションの取り方のコツなどをシンプルにお伝えします。理想やお題目ではなく、手を抜くところと手をかけるところのメリハリをつけて肩の力を抜くお手伝いをさせていただきます。

No.58 (人N0.11)

職場・学校のためのメンタルヘルス講座

総合文化学部 人間福祉学科准教授 知名 孝

最近、精神疾患や精神障害、様々なメンタルな問題について取り上げられることが多いのですが、実際どういうものなのでしょう？そしてそれら精神に関する問題について世の中ではどういう治療や支援を行っているのでしょうか？幼少時期の母子関係や親子関係から、成人期になってメンタルの問題を抱えてしまうって本当ですか？職場や学校、家庭ではどういう対応をしていけばいいのでしょうか？みなさんの様々な疑問に答えていくための講座です。

No.59 (人N0.12)

発達障害児者支援のこれまでとこれからを考える

総合文化学部 人間福祉学科准教授 知名 孝

学校や地域で発達障害児者の支援の仕組みが制度化されて10数年になります。発達障害者支援法に始まり、特別支援教育の成立、そして就労支援など障害福祉制度サービスの対象化など、まだ不十分ではありますが、かつてに比較すると多くの仕組みがつくられてきました。しかし、実際に発達障害児者の支援はどんな状況で、どういうとことに不十分さがあるのでしょうか？そういうことを考えていくための講座です。

【総合文化学部教員 提供講座】

No.60 (人N0.13)

どうする、どう考える沖縄の学力 ～島を育てる学力をめざして～

総合文化学部 人間福祉学科教授 三村 和則

「全国学力テスト」の結果沖縄県の子どもの学力が全国比で予想外に低迷し、大きな格差のあることがわかりました。しかし、学力向上は夢ではありません。学力とは何か、学力の向上はなぜ必要か、「全国学力テスト」結果が明らかにしたこと、学力向上のために学校と授業だけでなく家庭、地域、行政ができること、しなければならないことは何か、学力向上と沖縄社会の未来像との関係など、わかりやすくお話しします。「全国学力テスト」の問題やそのモデルになっているPISAという「国際学力到達度調査」の問題を実際に解いてみるすることができます。聴講者のニーズに応じて焦点を変えてお話しすることができます。